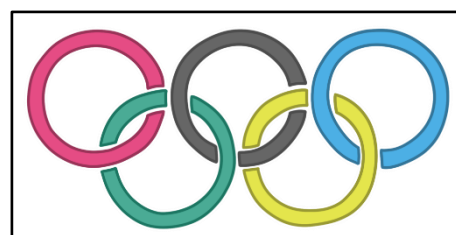


どの選手にもストーリーがあります

7月26日から8月11日までパリオリンピックが行われていました。日本とフランスとの時差のため、日本のテレビでの競技の放映は夜間から深夜にかけてでしたので、眠い目をこすりながら観戦された人もたくさんいたと思います。



今回のオリンピックでは、宝塚市出身で男子飛込の玉井陸斗選手が銀メダルを獲得されたことは記憶に新しいところです。そのほかの選手も、それぞれの競技の中で精一杯の力を出して活躍されました。

4年ごとのオリンピックでは、事前に何個のメダルが取れそうか、この選手は金メダルが確実などの、過度の期待を持ってしまいます。しかし、世界の一流の選手が集まる大舞台で、力を出し切ったけれど他の選手の方がよい記録を出したり、他のチームに惜しくも負けたりして、悔しい思いをする選手もあります。そのことに対して、SNSなどで責め立てたり、悪口を言ったり書き込んだりすることが多く見られました。国際オリンピック委員会をはじめ、それぞれの競技団体もこれらのことから選手をどのように守るのかについて対応を迫られる事態にもなっています。オリンピックに出場するだけでも素晴らしいことなのに、結果によって称賛したり中傷したりということになっています。

オリンピックでは多くの競技や種目が行われますが、世界の各国から全ての競技に1人ずつ出場できるものではありません。また団体競技でも各国1チームずつ出られることもありません。それぞれの地域ごとに予選があり、その予選を勝ち抜いてきた選手やチームだけがオリンピックに出場できます。その地域ごとの予選の前には、その国での予選があり、選手一人一人はそういったこともくぐり抜けてきました。そこには、観戦している私たちが知らない、想像もできない努力があったに違いありません。選手一人一人にはそれぞれのストーリーがあってそのストーリーの上にオリンピック出場があります。

パソコンや携帯電話、スマホの普及によって、不特定多数の人が匿名でいろいろなことを発信できる世の中になりました。また、そういう発信を子どもたちも目にしたり聞いたりすることが当たり前になりました。このことを今一度私たちは考えなければなりません。結果がどうであれ、がんばった人、努力を積み重ねた人に対する尊敬の念を持つことの大切さをしっかりと認識しなければなりません。このことは学校生活でも同じです。子どもたち一人一人にはそれぞれに個性があり、自分らしさがあります。そのことを認め、時には憧れ自分もそうなりたいと思うことは、生きていく上でとても大切なことです。今日から2学期が始まります。教科の学習も大切ですが、人としてのあり方を考え、ともに喜び、ともに励まし合い、ともに認め合い、時にはともに悲しんだりすることが大事であることを忘れずに、日々の教育活動を進めていきます。